

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.14をお届けいたします。

facebook



12月のTOPICS

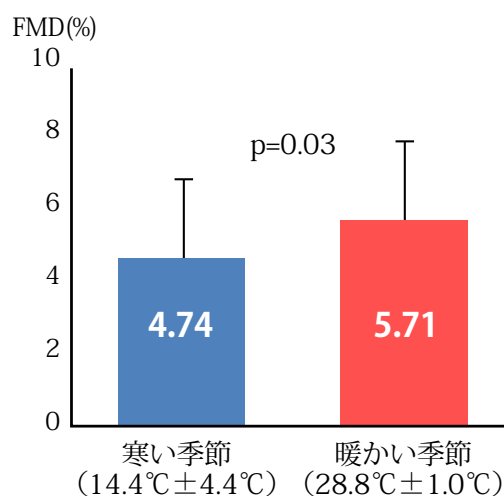
- 血管内皮機能と季節の関係
- 1月の学会展示のご案内

■ 血管内皮機能と季節の関係

心筋梗塞や脳梗塞などの脳心血管疾患は冬に多く起こることが知られています。平成16年の厚生労働省統計^(※)によると、心筋梗塞や脳梗塞などによる死亡数は1月が最も多く、次いで2月、12月、3月と冬季に集中、夏季のおよそ1.5倍にのびます。これは体温維持のための血管収縮による血圧の上昇や、ヒートショックなどが大きな原因とされています。

同様に夏季に比べて冬季は血管内皮機能が低下し、リスクの高い状態にあることを示唆する報告があります。高血圧(85%)、糖尿病(26%)、脂質異常症(74%)を含む27名の患者(男性14名、女性13名、平均年齢 60.4 ± 10.1 歳)を対象に、寒冷期($14.4 \pm 4.4^\circ\text{C}$)および温暖期($28.8 \pm 1.0^\circ\text{C}$)にFMDを測定し比較した。右図のとおり、FMD値は寒冷期($4.74 \pm 2.15\%$)、温暖期($5.71 \pm 2.17\%$)と寒冷期が有意($p = 0.03$)に低かった。

以上のことから、脳心血管疾患発症のリスク評価に、冬季にFMDを測定することが有用であると考えられます。



引用文献: Am J Cardiovasc Dis 2012;2(2):111-115

※心疾患—脳血管疾患死亡統計の概況
人口動態統計特殊報告(平成18年2月24日に公表)

■ 1月の学会展示のご案内

第45回日本総合健診医学会

会 期：2017年1月27日(金)・28日(土)
会 場：東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾート